

なつやすみ学生ボランティア体験記 後半

8月6日(日) いなべこども活動支援センター【たのしい能楽】

3歳から能楽を習っていたという員弁中学校1年の中村仁士さん。この教室の卒業生です。この日は、先生の補佐として小さい子たちをまとめたり、後輩たちにお手本を見せたりしていました。自分の知識で役に立ちたかったが、教えることの難しさを知ったという中村さん。休憩中には一緒に遊んだり、小学生に小鼓の叩き方を教えたりと、先輩として慕われている様子が伝わってきました。



8月6日(日) ののはな【流しそうめん会】

桑名高等学校1年の水谷美月さんは、以前からボランティアに興味があり、今回応募してくれました。初めは戸惑っていたものの、次第に慣れてくると、自分から積極的に動いていました。「もっと障がいのある方とコミュニケーションをとりたいと思いました」と感想を寄せてくれました。



ののはなのスタッフの辻さんは「いろんな人がいて、社会が成り立っていることを感じてくれたら」と話していました。みんなで流しそうめんができて、とても楽しそうでした。

8月7日(月) あ~ちゃんので【定例活動】

クリスマスに向けて、障がい者施設に寄贈する巾着袋の製作にいそむ活動の手伝いには、暁高等学校2年の出口凛杏さんが参加してくれました。実はメンバーのお孫さんで、「おばあちゃんの活動を見てみたい」と応募してくれたそうです。使い慣れないミシンも先輩たちにゆっくり教えてもらいながら、女子トークも弾みました。



そう、得意なことじゃなくてもいいんです。人生の先輩には教わるのがたくさんあります！

8月7日(月) いなべ自然楽校【実験教室】

この日は、員弁中学校1年の太田莉愛さんが実験教室のお手伝い。かわいい姉妹や近所の子どもたちが遊びに来てくれました。20項目から見たい実験を選ぶと、出口先生が披露してくれます。太田さんも手伝いながら、一緒に実験を楽しみました。学校の教科では理科が好きだという太田さん。とても良い体験になったようです。



迎えに来た保護者にうれしそうに、実験の説明をする太田さんでした。

8月12日(土) 阿下喜パトロール隊【定例活動】

ちょうど、「いなべ市ど真ん中まつり」が北勢市民会館で行われていて、人出が多い夜でした。いなべ総合学園高等学校3年の木原愉楽さんは、阿下喜に2年前に引っ越してきたばかりで、町の様子を知ることができ、こういう活動をしてきている人たちがいることに興味があったと言います。代表の陰地さんから活動内容を紹介された後、隊員や駐在さんと一緒に青パトに乗って、約1時間半の見回りをしました。



活動内容を紹介する代表の陰地さん。

8月14日(月) Music Is Religion 【いなベ盆祭】

台風が迫る中で開催された今年で2回目のいなベ盆祭。いなベ総合学園高等学校3年の木原愉楽さん、佐合勇弥さん、2年の小川瑠音さん、大月麻由さんがサポートスタッフとして参加し、射的担当とキッチンカー(ピザ)担当へ分かれました。射的は無料で子どもたちに提供されたこともあり、行列ができましたが、子どもたちと一緒に楽しんでいて、同じ目線で話したり、はじめてと思えないほど神対応でした。



8月19日(土) いなべおもちゃ病院 【定例活動】

大安中学校3年の野口明里さん、杉山咲優さんが体験参加。代表の太田さんから、手製のフローチャートをもらい、おもちゃ病院の過去の取組や運営方法などを教わった後、粗大ごみ処理場に同行して、リユースできそうなものを譲り受けました。

おもちゃ病院に戻り、さっそく赤ちゃん用のメリーや知育ボックスの修理にかかります。電池残量を測ったり、さびを削ったり、エアコンプレッサーで掃除したりするうちに、音が鳴り、部品がまわるように。

私にもおもちゃを直せてうれしい、と達成感があつたようです。



8月21日(月) いなべ大きなもりのいえ 【学童保育】

暁高等学校3年の八嶋紗耶さんは、夏休みの学童保育のボランティアを1日体験しました。外の手作りハンモックで遊んだり、捕ってきたカニを観察したり、川遊びに出かけたり、一緒に楽しんでいました。将来はリハビリテーションの仕事で子どもと関わるのが夢という八嶋さん。子どもたちと穏やかに向き合う姿が印象的でした。

ここは「子どもたちがその子らしくいられるように」と運営されています。たくさんの人の理解や地域の協力を得て、運営ができていることを実感した1日になりました。



8月23日(水)~26日(土) いなべ市社会福祉協議会 【フードパントリー】

4日間かけて仕分けと配布を行いました。この日は桑名高等学校1年の水谷美月さん、員弁中学校2年の三谷明日香さんが仕分けの手伝い。フードパントリーの取組の説明を受けた後、約300kgの米を160袋に分けます。その多さに、子ども食堂団体も学生も、もくもくと作業を続けますが、余裕が出てきたころ、和やかに話もはずみました。米のほか、レトルト、カップ麺、菓子は、すべて寄付されたものでした。「廃棄食品が減ると同時に、困っている人に届ける活動のお手伝いできて良かった。当たり前のように食べられることを幸せに思う」と感想がありました。



最終日の配布には、いなべ総合学園高等学校3年の入口翔斗さん、木原愉楽さん、佐合勇弥さんが参加しました。同じ部活の仲間だという3人は「チームワークなら任せて!」と自分たちで手分けをして、食料を取りに来た人に手渡していました。重い品は車まで運ぶ手伝いも。市民や様々な企業が協力していることを知り、地域の支え合いを感じられたようです。



たくさんの活動団体の協力で、無事に「なつやすみ学生ボランティア体験」を終えることができました。本当にありがとうございました。体験した学生だけでなく、受入団体からも好評を得ており、来年もまた開催できればと思います。よろしくお願ひします。